

ヨシキリザメ 全水域

Blue Shark, *Prionace glauca*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)
 みなみまぐろ保存委員会 (CCSBT)
 全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)
 インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)
 中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
 北太平洋まぐろ類国際科学委員会 (ISC)

最近の動き

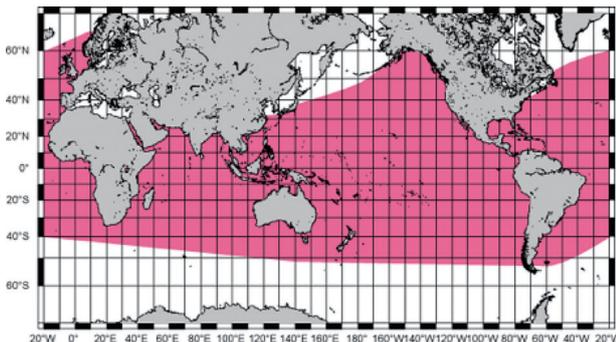
2014 年に北太平洋系群の資源評価が ISC サメ作業部会で行われ、現在の資源量は乱獲状態になく、漁獲も過剰漁獲の状態にないとされた。この結果は同年 7 月の ISC 本会合で承認されたのち、8 月の WCPFC 科学委員会でも受け入れられた。また、WCPFC 科学委員会は、資源評価で使用されたデータの不確実性を考慮し、①漁獲上限の設定を含めた管理計画の提出、②漁獲及び漁獲努力量のモニタリングを勧告した。

生物学的特性

- 寿命：20 歳以上
- 成熟開始年齢：雄：4～6 歳 雌：5～7 歳
- 繁殖期・繁殖場：初夏、北緯 30～40 度の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：魚類、頭足類
- 捕食者：幼魚は大型さめ類や海産哺乳類、成魚は調査中

利用・用途

肉はすり身など、鰭はふかひれ、皮は工芸品や医薬・食品原料、脊椎骨は医薬・食品原料



ヨシキリザメの分布 (Compagno 1984 より)

漁業の特徴

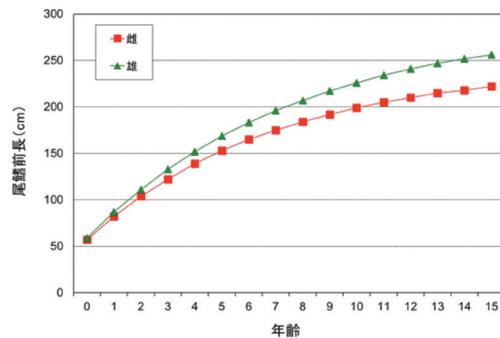
本種は全世界の熱帯から温帯にかけて出現し、外洋性さめ類の中で最も資源豊度が高いと考えられている。本種はまぐろはえ縄漁業で数多く漁獲されているが、基本的に混獲種であり、日本周辺の漁場を除き、遠洋水域で混獲されるヨシキリザメは外地で水揚げされるか放流されている。水揚げは宮城県の気仙沼港を中心に行われ、肉、鰭、脊椎骨、皮が食用や工芸用に利用されている。

漁業資源の動向

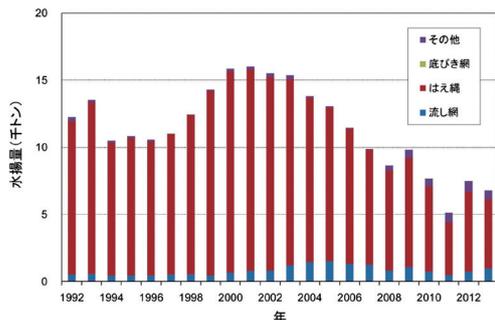
本種のはえ縄漁業等による水揚量は、1992～2013 年において 5,100～16,000 (平均 11,461) トンであり、2001 年をピークにやや減少傾向で、2011 年は東日本大震災の影響により過去最低を大きく更新したが 2012 年は 2010 年レベルまで回復した。

資源状態

北太平洋系群は、2014 年に ISC サメ作業部会で行われた資源評価において、現在の資源量は乱獲状態になく、漁獲も過剰漁獲の状態にはないとされた。南太平洋系群については、各国の CPUE を標準化して推定した資源量指数の年トレンドが異なっており、更なる検討が必要なため資源評価実施に至っていない。その他の系群の資源状態について国際的な合意事項はないが、南北大西洋系群は、この約 40 年間比較的安定していると考えられている。インド洋系群は、顕著な増減傾向が見られないことから、資源動向は横ばいであると推測される。



ヨシキリザメの年齢と成長 (中野 1994)

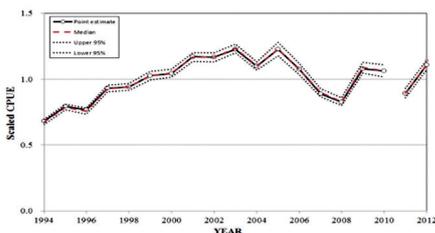
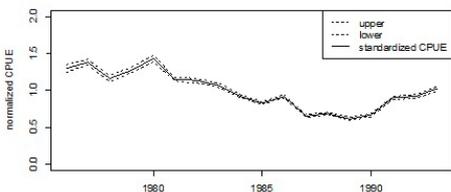


日本の主要漁港へのヨシキリザメ水揚量 (1992～2013年)

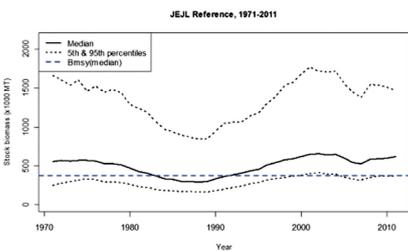
管理方策

北太平洋系群について、2014 年の WCPFC 科学委員会は、資源評価で使用されたデータの不確実性を考慮し、①漁獲上限の設定を含めた管理計画の提出、②漁獲及び漁獲努力量のモニタリングを勧告している。

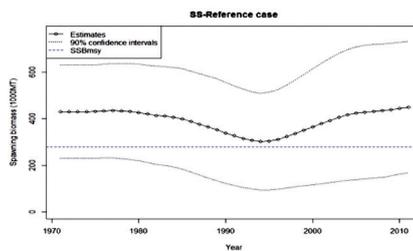
本種を対象とした保存管理措置は存在しないが、全てのまぐろ類地域漁業管理機関において、漁獲されたサメ類の完全利用（頭部、内臓及び皮を除く全ての部位を最初の水揚げ又は転載まで船上で保持すること）及び漁獲データ提出が義務付けられている。加えて、WCPFC では、2014 年の年次会合において、①まぐろ・かじき類を対象とするはえ縄漁業は、ワイヤーリーダー（ワイヤー製の枝縄及びはりす）又はシャークライン（浮き玉又は浮縄に接続された枝縄）のいずれかを使用しないこと、②さめ類を対象とするはえ縄漁業は、漁獲を適切な水準に制限するための措置等を含む管理計画を策定すること、が合意された。



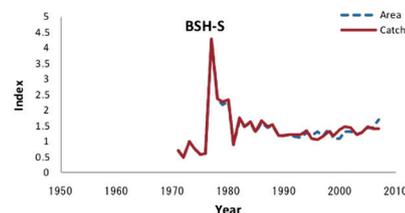
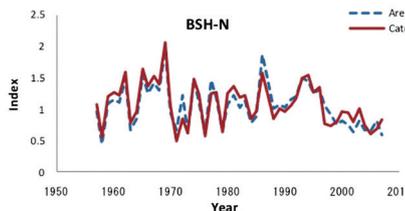
北太平洋海域において日本の近海遠洋まぐろはえ縄漁船により漁獲されたヨシキリザメの標準化 CPUE（上：1976～1993 年、下：1994～2012 年）点線は 95% 信頼区間、赤の破線は中央値を表す。東日本大震災の影響により 2011 年以降は別に推定した。



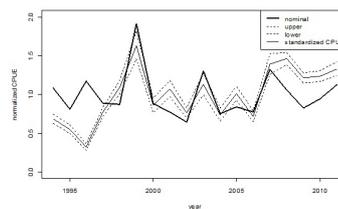
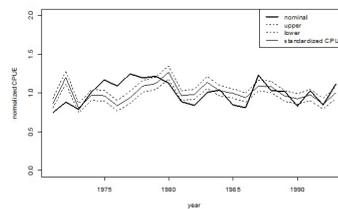
ベイズアンサープラスプロダクションモデルで推定された北太平洋ヨシキリザメの資源量 点線は 90%の信頼区間、青の破線は MSY 水準を表す。



統合モデル（Stock Synthesis 3）で推定された北太平洋におけるヨシキリザメの産卵資源量 黒の点線は 90%の信頼区間、青の点線は MSY 水準を表す。



大西洋におけるヨシキリザメの標準化された CPUE（上：北大西洋、下：南大西洋、1957～2009 年）実線は重量、破線は面積で重みづけを行った標準化 CPUE を示す。



インド洋におけるヨシキリザメの CPUE（上：1971～1993 年、下：1994～2011 年）太実線はノミナル CPUE、細実線は標準化 CPUE、点線は 95% 信頼区間を示す。

ヨシキリザメ（全水域）の資源の現況（要約表）

| | 北太平洋 | 南太平洋 | 北大西洋 | 南大西洋 | インド洋 |
|------------------|------------------------------------|------|-------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| 資源水準 | 中位～高位 | 調査中 | 調査中 | 調査中 | 調査中 |
| 資源動向 | 横ばい | 調査中 | 横ばい | 横ばい | 横ばい |
| 世界の漁獲量（最近 5 年間） | 調査中 | 調査中 | 3.5～3.8 万トン 平均：3.7 万トン | 1.9～3.4 万トン 平均：2.6 万トン | 平均：24,447 トン (2009～2013 年) |
| 我が国の漁獲量（最近 5 年間） | 5,149～9,824 トン(水揚量) 平均：7,395 トン | 調査中 | 1,227～2,210 トン 平均：1,807 トン | 981～2,271 トン 平均：1,522 トン | 1,114～2,657 トン (2009～2013 年) |
| 最新の資源評価年 | 2014 年 | — | 2008 年 | 2008 年 | — |
| 次回の資源評価年 | 未定 | 未定 | 2015 年 | 2015 年 | 2015 年 |